

荒川流域における 青の革命と学術への期待

NPO法人自然環境復元協会理事

NPO法人荒川流域ネットワーク理事

木内勝司

話題提供の内容

- 1. 自己紹介
- 2. 荒川流域の概要
- 3. NPO法人荒川流域ネットワークの活動
とミッション(使命)
- 4. 世界水フォーラムと荒川水フォーラム2003
- 5. 流域経営、環境と経済
- 6. 荒川流域における自然再生活動と
学術への期待
-
-

1. 自己紹介

- <木内勝司のプロフィール>
- 多方面からのアプローチが必要な環境計画分野で、現役実務の技術者として走回る建設コンサルタント。
- 名前: 木内勝司 (埼玉県所沢市出身、1947年生まれ)
- 所属: 有限会社 木内環境計画事務所 代表取締役
- ボランティア活動: NPO法人自然環境復元協会理事・環境再生医制度推進委員、NPO法人荒川流域ネットワーク理事、入間川ビオトープネットワーク研究会代表
- (社)日本河川協会個人会員(多自然型河川工事現場技術研究サークルサプリーダー、川の水源に登るサークル理事、彩の川研究会幹事)、土木学会・造園学会・水環境学会・日本生態系協会・岩木川と地域づくりを考える会、NPO法人東北水環境ネット会員

- 経歴: 埼玉大学で電気工学を専攻、パリ・エコール・デ・ボザール(フランス国立美術専門学校)に留学。各地を見学放浪の後、造園設計事務所、造園施工会社、建設コンサルタント各社で、公園緑地計画設計、都市計画緑のマスタープラン、都市防災計画、環境調査、海岸、砂防、河川環境整備計画など多方面にわたるコンサルティング業務に従事。平成元年、有限会社 木内環境計画事務所を設立、現在に至る。
- 資格: 技術士 建設部門(都市及び地方計画)(河川、砂防及び海岸)
- 環境再生医(上級)、一級ビオトープ計画管理士、一級造園施工管理技士、自然観察指導員、PWエドゥケーター

- 主な業績: コートダジュール・ラングドックルシオン海岸開発計画の調査、海岸利用計画構想、沿岸域利用指針、樹木の防火効果・物理的機能に関する研究、都市防災対策手法の開発、防災緩衝緑地計画、河川環境管理基本計画、ふるさとの川モデル事業計画、新しい多摩川づくり計画、東北の自然豊かな川づくり(近自然化河道改修計画検討マニュアル)、ビオトープ回復計画など
- 論文・著書・講演: 土木の日フォーラム特別記念講演「明日の郷土の建設に向けて」1999・弘前、河川合流点における河川整備とビオトープの回復、水工学論文集、第45巻、2001、河川合流点における河川整備と河畔林の保全、水工学論文集、第46巻、2002.ほか
- 現住所・連絡先: 358-0024 埼玉県入間市久保稻荷1-10-1-17-503
- TEL 04-2965-1472 FAX 04-2965-1457
- 携帯 090-3096-0904
- E-mail k-kiuchi@catnet.ne.jp

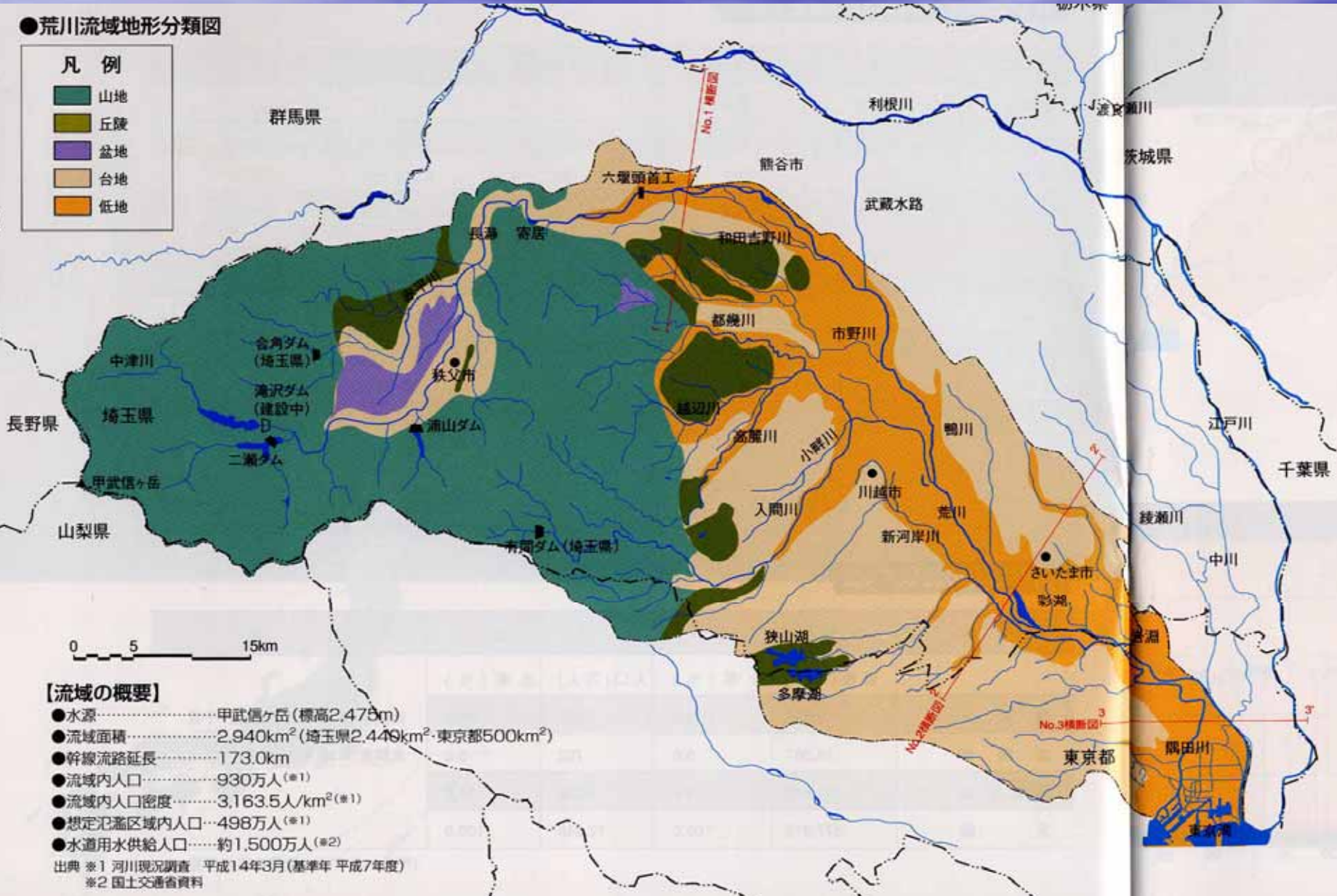
2. 荒川流域の概要

(出典:あらかわ 荒川上流河川事務所 事業概要 2004)

●荒川流域地形分類図

凡例

- 山地
- 丘陵
- 盆地
- 台地
- 低地



上流 (長瀬付近)



長瀬岩壁 (荒川河口より110 Km付近 長瀬町)

(熊谷付近)



荒川大橋付近 (河口より76.0km付近 熊谷市)

中流

(吉見・鴻巣付近)



下流

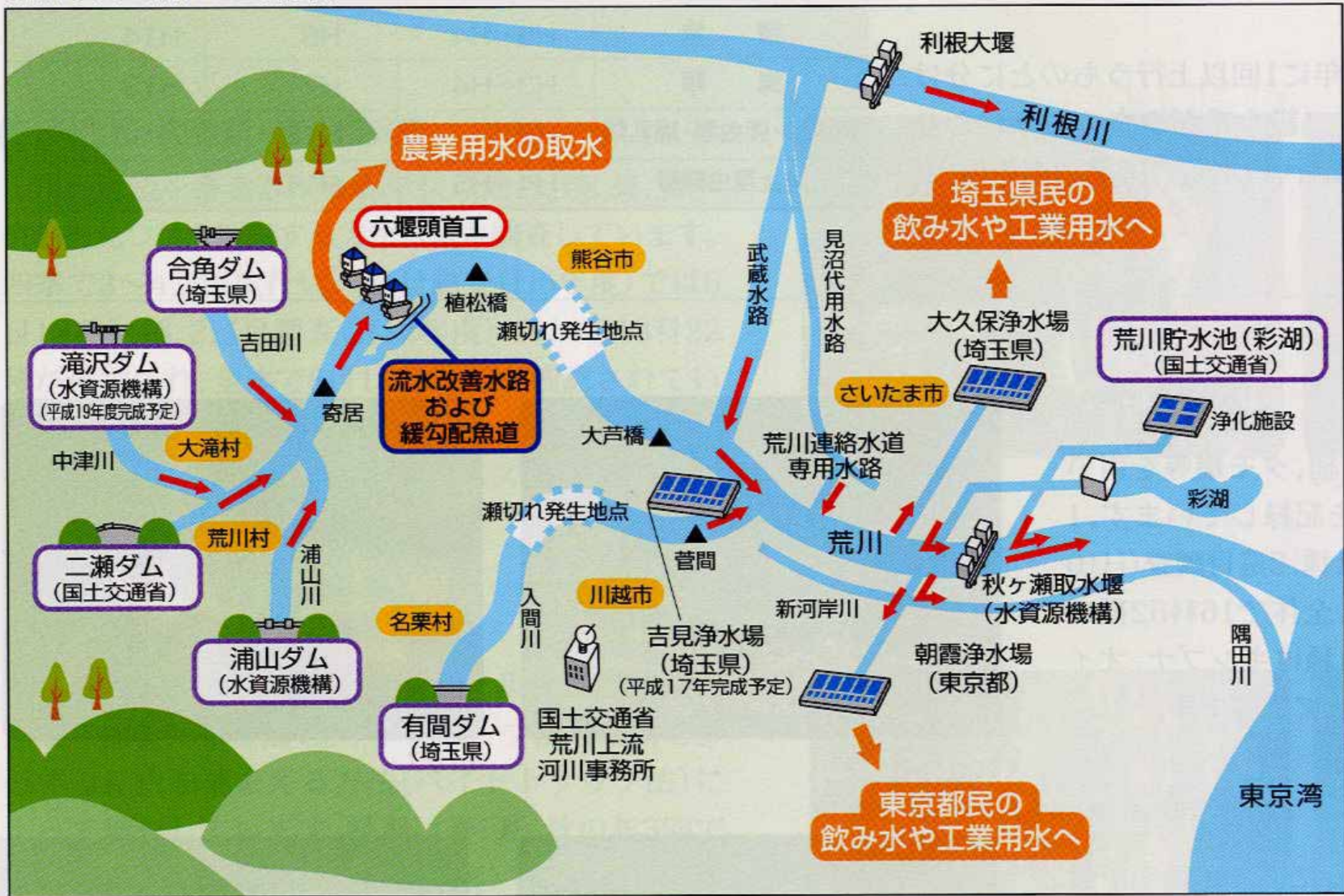
(小松川付近)



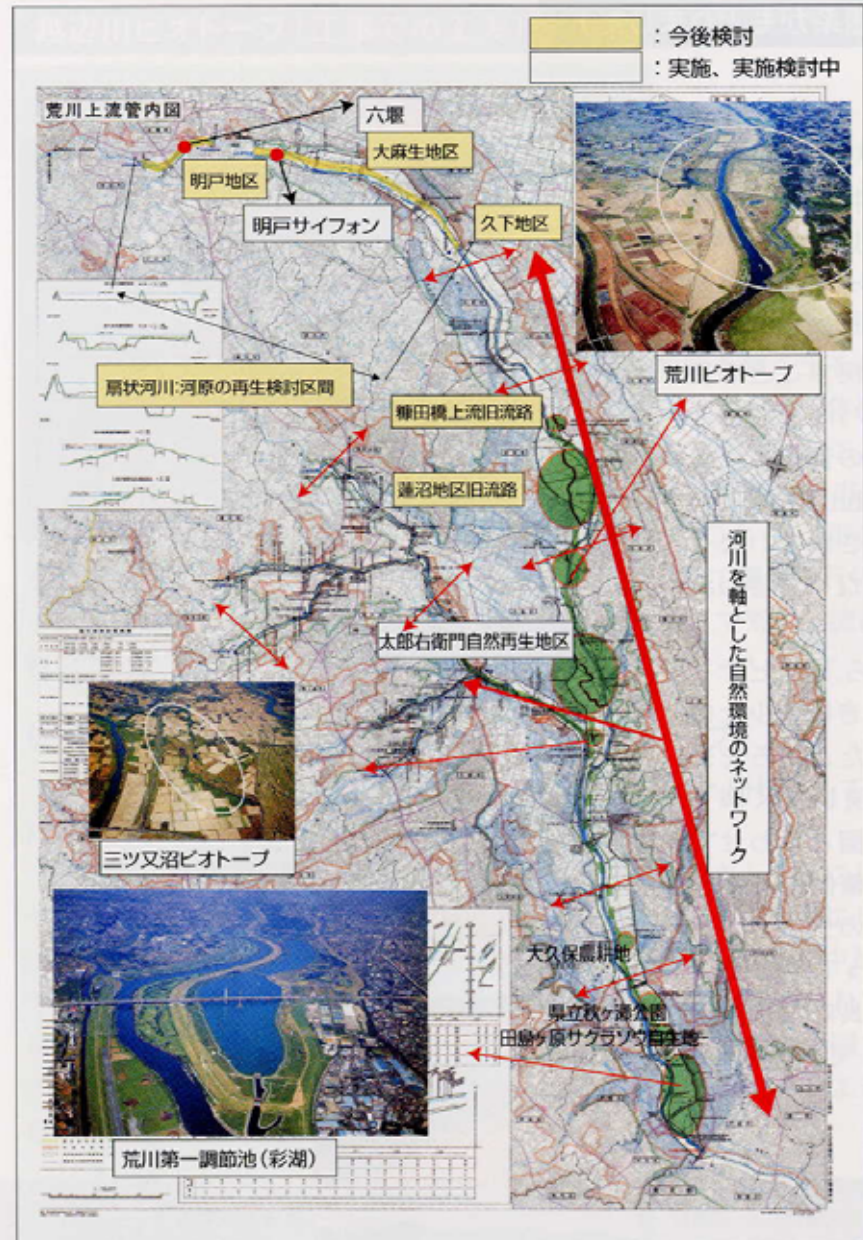
小松川付近 (河口より4.0km付近 江戸川区)

荒川の水の流れと主要施設

●荒川の水の流れと主要施設



荒川エコロジカル・ネットワーク



荒川に分布する自然の拠点

熊谷 大麻生 砂れき地の自然を守るために



大麻生の植生移植実験区付近上空より



実験を行っている熊谷市広瀬の河川敷は、砂れき地を代表する貴重な植物が数多く見られます。



工事を行った地域の周辺は、埼玉県内で最大のカワラナデシコの群生地として有名です。

熊谷 久下橋上流 コアジサシの営巣地を守る侵入規制ゾーン



久下橋付近上空より



荒川中流部の砂れき地は、コアジサシが集つくりするための貴重な場所です。



コアジサシは夏に日本にやってきて、本州やそれ以南にある砂浜や埋め立て地、砂や小石の多い中州などで卵を産み、子育てをします。

糠田橋上流 ハンノキ林



糠田橋上流付近上空より



ミドリジミの生活を変えるハンノキ林

糠田橋上流付近の自然の回復は、サシバが子育てできる環境を守ることにつながります。



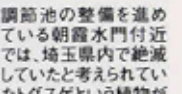
朝霞調節池 希少植物が育つ場所を守る



荒川と新河岸川の合流点にある朝霞調節池の周辺は、水害の起きやすい地域でした。

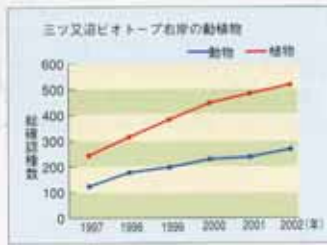


秋の七草のひとつフジバカマ。朝霞調節池は埼玉県内にわずかに残る自生地のひとつです。



調節池の整備を進めている朝霞水門付近では、埼玉県内で絶滅していたと考えられていたトダスケという植物が発見された(平成4年)ほか、全国的に減少しているフジバカマなどの希少な植物の生育も確認されています。

三つ又沼ビオトープ (パートナーシップによる保全管理)



保全管理作業：外来種の除去
三つ又沼ビオトープの一部では、セイタカアワダチソウやオオタカサといった外国産の植物が繁殖し、在来の生物の生育、生息を脅かしています。こうした外来種を抜き取ったり、刈り取ったりしながら、昔からの地域に生育・生息していた生物にとってよりよい環境を取り戻しています。



三つ又沼はかつての川の合流点



あらかわ市民環境サポーター(三つ又沼)制度

荒川の貴重な自然である三つ又沼ビオトープを大切に思い、共に守り育てる人々による仲間を増やすための認定・登録ボランティア

あらかわ市民環境サポーター(三つ又沼)制度
認定・登録

認定・登録
(活動時間、活動場所)

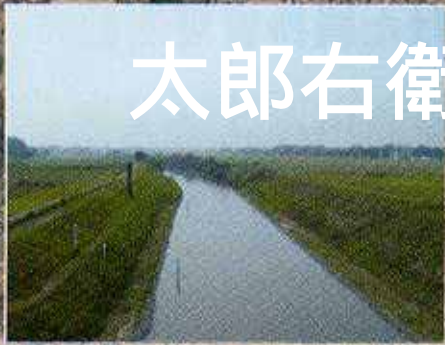
認定・登録
認定・登録

認定・登録
認定・登録



上の地図は、明治14年に測量された三つ又沼周辺の地図です。かつて入間川と荒川が合流して三つ又になっていたところ(地図で赤く囲まれた部分)は川の流れがつけ替えられたため、かつての合流点の名残が三つ又沼となって残ったのです。

太郎右衛門地区自然再生事業



荒川エコロジカル・ネットワークの「核」となる太郎右衛門自然再生地



○拠点間での生物の移動が可能となり、種の絶滅リスクが軽減

○広い生育域を必要とする種も生育可能となり、種の多様性が保全

○生息域が広範囲になり生育数が増すため、種内の遺伝的多様性が保たれる

荒川太郎右衛門自然再生地で確認された希少動物は10種60科79種



ホンドギツネ



ヨシコイ



サクラソウ



サンバ



カワセミ



ナガボノシロフレモクウ



ハネナシアメンボ



コムラサキ



エキサイゼリ



タマシギ

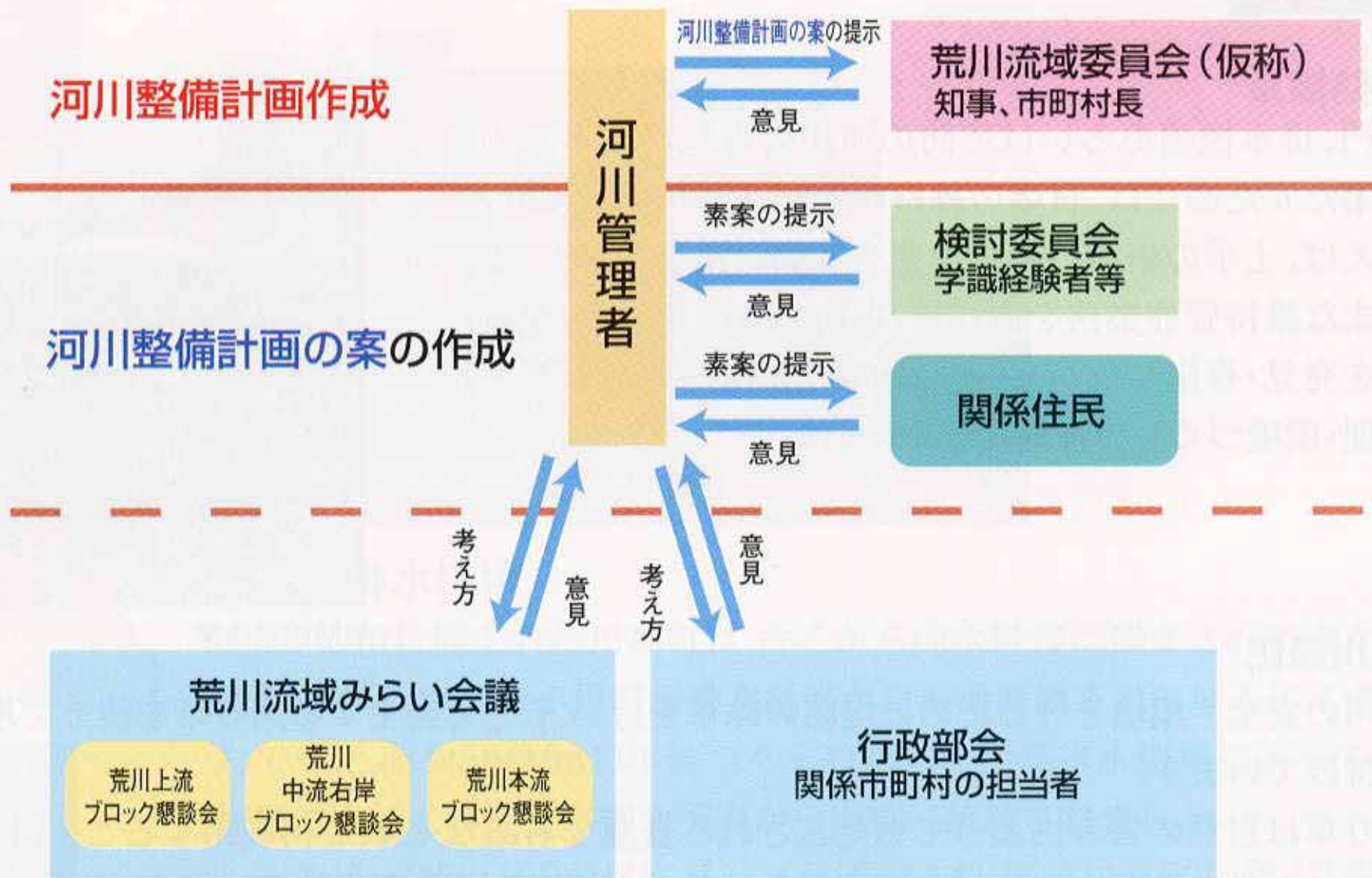


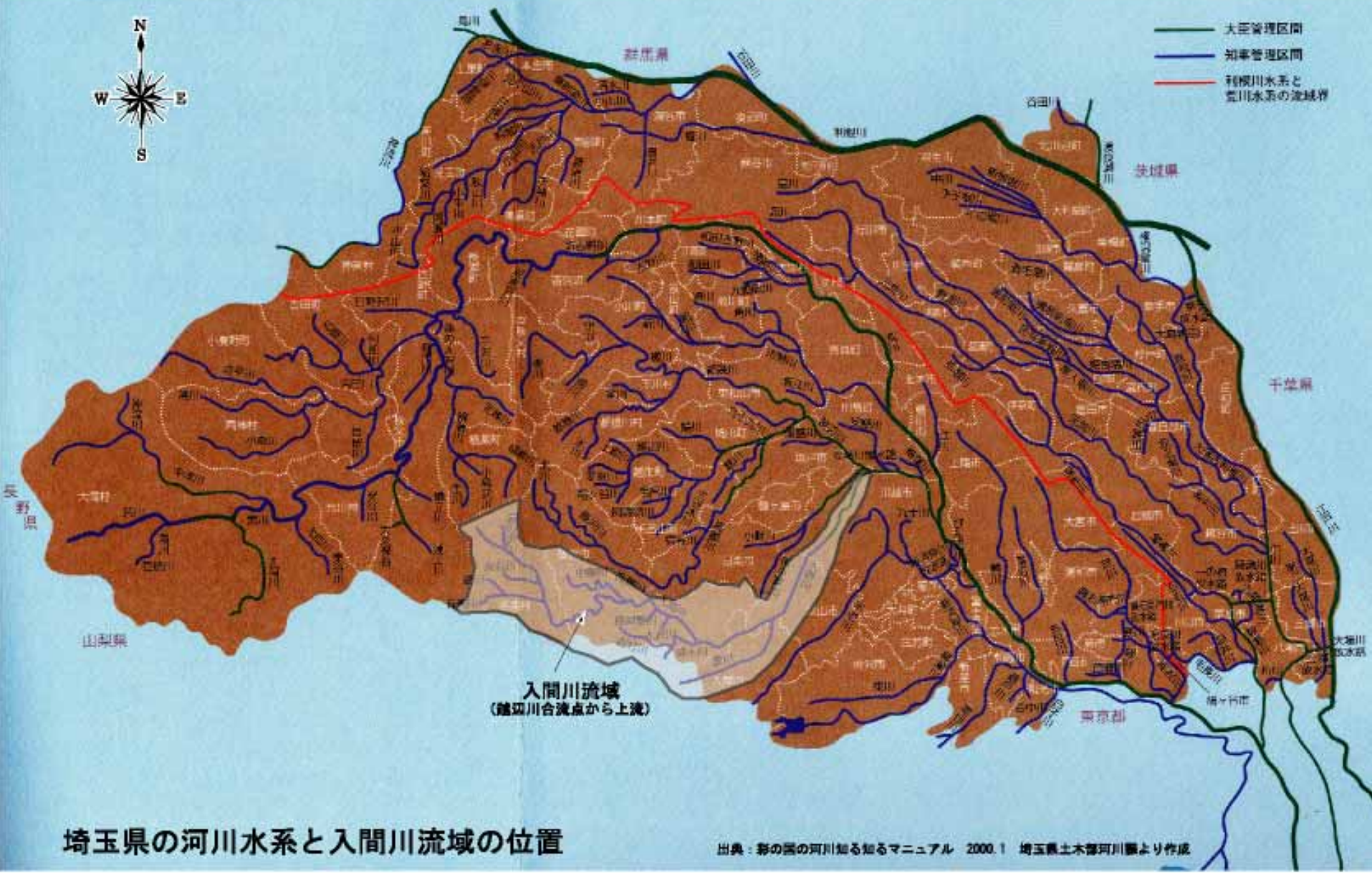
ミドリシミ



ミクリ

●河川整備計画策定に向けた組織（案）





埼玉県の河川水系と入間川流域の位置

出典：野の国の河川知る知るマニュアル 2000.1 埼玉県土木部河川課より作成

3. NPO法人荒川流域ネットワークの活動とミッション(使命)

- 1995年に、当時の建設省(現国土交通省)荒川上流工事事務所が主催した「荒川に関する懇談会」をきっかけとして、埼玉県内の荒川流域の市民団体をネットワークする組織として発足
- 2002年にNPO法人の認証
- 当初18団体からスタートし、現在、ネットワークに参加している市民団体は、荒川源流の大滝村から下流の戸田市までの67団体
- 荒川流域での水質一斉調査を9年ほど続けており、流域をどのように活気づけるかというリバーレンジャー活動や、自然観察会、シンポジウム、エコツアーイベントなどを行っている。

荒川流域ネットワークのミッション

- 母なる荒川に清流を甦らせよう！
- あなたの家も水源地(排水・雨水貯留)運動の展開
- 絶滅危惧種ミズガキ復活キャンペーンの実施
- 木遣い文化の再生
- エコ・プライドを持って流域経営・国土保全を！

4. 世界水フォーラムと

荒川水フォーラム2003

- 2003年3月に第3回世界水フォーラムが開かれた際に、その分科会に参加
- 総合的水資源および流域管理分野で「ミズガキと流域経営」の分科会を主催
- 水源地となる森林保全のあり方、それを支えるための上下流交流、水質保全、水辺に遊ぶ子ども達の復権など、流域にかかわる市民活動の方向などについて話し合った。

- 世界水フォーラムが祭り・イベントや会議に終わらずに、そこからどういう活動を各地域、全国、世界で取るのかということが問われた。
- そこで、世界水フォーラムの流れを荒川にということで、「荒川水フォーラム2003」を開催した。



荒川水フォーラム2003の全体会の様子

荒川水フォーラム2003

- 第1分科会
- テーマ「親しめる川づくりとミズガキ復活キャンペーン」

- 第2分科会
- テーマ「流域経営、環境と経済」

- 第3分科会
- テーマ「森林保全の国民的役割・基金・税・料金の流域管理」

- 第4分科会
- テーマ「源流の村との交流と協働」

5 . 流域経営、環境と経済

<ポイント1>

- 自分たちの住む地域、地元をひたすら愛せるかどうか**鍵を握る**
- そういう人たちの**結びつき = ネットワークが成立することが、成功するために重要**
- そのためには**お互いの地域をよく知り、交流して実情を理解すること、情報交換を続けることが大事**
- **なにより、地に着いた活動を自ら進めていく気概を持った人たちがたくさん増えることではないか**

< ポイント2 >

- ただ気持ちの結びつきだけではだめで、実際の経済活動として結びつくことが重要
- 例えば森を再生するためには、木材生産のための森林の再生には、当然のことながら木材を使うシステムを再生する
- 地場産の木を長い目で見て、ライフサイクルコストを考えて使い続けることが、ひいては森の再生につながる
- 昔の人たちが工夫した森づくりのシステムを経済ベースで再生すること、コミュニティを再生するための人のつながりが成り立つ経済システムを工夫すること
- それには、学校など公共施設に木を多く使うこと、木の家に住む人が増えること、町中に地場産の本物の木を使ったものがふえるようにしていくことではないか

< ポイント3 >

- こうした活動を学校教育の現場、社会環境教育の中でとりあげ、子ども達をはじめ、多くの人たちに自然を理解する気持ち、愛する気持ちを取り戻してもらうよう働きかけることが大切
- とくに素直な心を持つ子ども達に地域をよく見てもらい、子ども達を通じて大人達に素直な気持ちを取り戻してもらうことではなかろうか

人と自然の共生が成り立つために

- 人は「内なる自然」を誰しももっていて、本物の自然の中で遊べば、素直に「内なる自然」の声が聞こえるようになる
- 今のミズガキが増え、昔ミズガキもかつての自分を取り戻す。それが地域や郷土を愛する気持ちにつながり、生き生きと元気になれる。人と人が生き生きとつながり、環境と経済が無理なく結びつく
- 源流から海まで流域全体がひとつにまとまったときに、はじめて「人と自然の共生」が成り立つのではなからうか

6. 荒川流域における 自然再生活動と学術への期待

課題 連携・協働活動

- 市民活動は基本的に知識も考え方も異なる人の集まりで、活動の広がりや一般の多くの市民への浸透に限界があり、具体的な事業などでは合意を得にくい面があるように思われる。
- その原因は、任意のボランティア活動が主体であるため、一般市民からは物好きな団体、マニアの集団としてみられがちながあげられる。
- NPO法人としてそのミッション(使命)を果たしていくためには、メンバーの知識の向上、意識改革、専門家や研究者との連携、一般市民の信頼を得るために行政との連携・協働活動が必要と考えられる。

課題 情報の共有化

- 活動の基本となる流域の実態についての科学的知見や情報、学術研究者との共同活動、データの蓄積が必要
- 参加団体の中には、地元の大学と共同で調査研究活動を始めたところもある
- 大学・研究機関等と連携した活動が広がることが期待され、情報の共有化や一般市民啓発活動への広がりが期待される。

課題 組織経営やマネジメント能力

- 自然環境などにかかわるNPO活動はなかなか自前の資金が得られにくいのが実情で、助成金や補助金などに依存する体質がある
- 任意団体の内はそれぞれの思いを支えとした自己実現がモチベーションとして大きいと思われ、社会的責任感はそれほど大きいようには感じられず、メンバー同士が楽しみながら和気あいあいとしていられる
- 法人化した場合には社会的責任が伴い、勝手な思いこみや無責任な行動は慎まなくてはならない。しかしながら、市民主体のNPO法人は事務的能力や専門的実務能力が弱いのが実情である。そのため、自前の活動資金の調達や組織の維持に苦労している。
- 今後は、大学等の研究機関や専門家、行政との協働活動を通じて、組織経営やマネージメント能力を上げていく必要があると感じている。

まとめ

- NPO法人としてそのミッション(使命)を果たしていくためには、専門家や研究者、行政との連携・協働活動が必要
- 活動の基本となる流域の実態についての科学的知見や情報、データの蓄積が必要
- 組織経営やマネージメント能力を高めていくことが必要